

図表でみる医療 2019

- OECDにおいて、日本国民の寿命は最長である（84.2歳）
- 成人の過体重および肥満の割合は、OECD内で最低である（25.9%）



- 男性の喫煙率はOECD内で8番目に高い（29.4%）
- 後発医薬品の使用は低いままである（医薬品全体量の40%、OECD平均は52%）



日本

どのように比較されるか？



日本は世界で最も平均寿命が長いなど、健康状態において優れた指標を多く有している。それでも多くの国民が健康に関して悲観的であり、14%の成人が自分は不健康であると評価している。しかしながらこれは言語文化の違いを反映しているとも言える。自殺率も比較的高いが（OECD諸国中6番目に高い）、徐々に減少してきている。

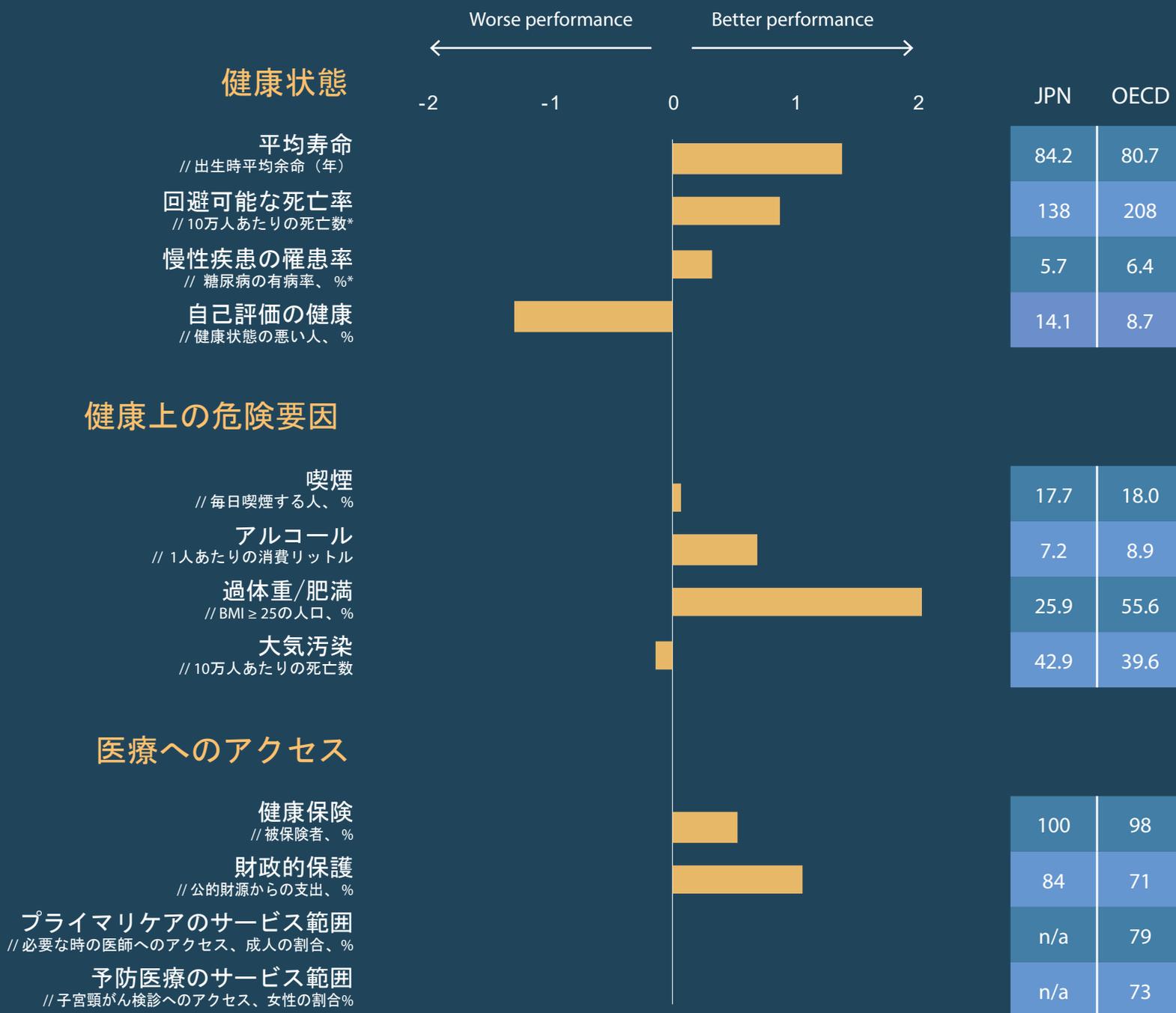
国民の多くが、健康的な生活を送っており、アルコール消費量は低く、また成人の過体重および肥満の割合は最も低い。全体の喫煙率はOECD平均に近いが、男性の喫煙率は高い。

医療へのアクセスは堅調であり、公的財源によって支払われる医療費はOECD諸国内で3番目に高い。医療の質も全般的に高く、例えば、脳卒中後の30日死亡率は2番目に低く、様々ながんの5年生存率も高く、慢性疾患による回避可能な入院率も低い。しかし、心臓発作後の30日死亡率は、OECD諸国中4番目に高い。

日本の高齢化は、財政の持続可能性に課題をもたらしており、医療や介護サービスの需要を押し上げている。日本は認知症の有病率が最も高く（人口1000人につき25人）、80歳以上の人口の割合も最高値を示している（8.5%）。



How far is Japan from the OECD average?



医療の質



安全な処方

// 抗生物質処方、DDD/千人

効果的なプライマリケア

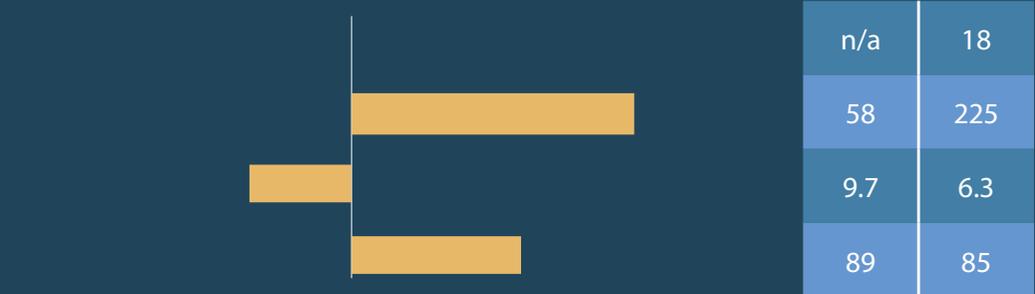
// 回避可能な喘息または COPDでの入院**

効果的な二次医療

// 心臓発作後の30日以内の死亡率**

効果的な二次医療

// 乳がん5年生存率、%*



資源



医療費

// 一人当たり (PPPに基づく米ドル)

医療費の割合

// GDPに占める割合、%

現役医師

// 人口千人あたり

現役看護師

// 人口千人あたり



主要データはこちらからダウンロード可能
www.oecd.org/health/health-at-a-glance.htm

注釈：表は、国のデータがOECD平均からどれくらい離れているかを標準偏差に基づいて示している。

* 年齢標準化。 ** 年齢・性標準化。BMI=肥満度指数、COPD=慢性閉塞性肺疾患、DDD=規定1日容量、PPP=購買力平価。



日本

日本はどのように比較されるか？

図表でみる医療2019では、OECD加盟国、候補国およびパートナー国における公衆衛生と医療制度のパフォーマンスに関する重要な指標を比較している。国民の健康状態や健康行動、医療へのアクセス、医療の質、そして医療資源が各国でどのように違うかを明らかにしている。80の指標に関し、最新の比較可能なデータに基づいて分析が行われている。これらのデータは、注釈のない限りは、公式な国の統計である。

日本：優先課題

財政の持続可能性と資源利用の効率性

医療費は2018年にGDPの10.9%に達し、2030年には12.1%に達すると予測されている。日本は高齢化と労働力の減少により、財政圧迫に直面する可能性がある。日本の医療制度は効率性を向上させる余地がある。医師、薬剤師、患者のインセンティブを対象とした政策の効果もある程度見られ、後発医薬品の使用は徐々に増加してきている。それでも、後発医薬品は医薬品全体量の40%を占めるにとどまっている。一方でOECD平均は52%であり、日本の利用割合はイギリス、チリ、ドイツより大幅に低い値である。後発医薬品の安全性や効率性について医療提供者や国民に周知するさらなる努力により、後発医薬品の利用割合がさらに高まる可能性がある。

日本の病床数は最も多く（1000人あたり13.1、OECD平均は4.7）、平均在院日数は2番目に長い（16.2日、OECD平均7.7日の2倍以上）。GDPに占める保健医療分野における設備投資支出はOECD諸国中最も高い。また、日本はCTスキャンとMRI装置の数がOECDにおいて群を抜いて多い。病床数を減らし、高価な機械をより効率的に利用する余地がある。

介護サービスの質と効率性の向上

日本の高齢化はOECDで最も進んでおり、2017年には人口の約8%が80歳以上、28%が65歳以上であった。これが、介護に高い需要をもたらしている。

介護従事者が比較的多いことや、その教育レベルが高いことから（OECDにおいて、高齢者人口あたりの介護従事者数は9番目に多く、高学歴の介護従事者の割合は4番目に高い）、介護サービスへのアクセスは良く、質は高いことが示唆される。それでも他の多くの国同様に、介護従事者の離職率が高いことは課題である。（出典：Who cares? Attracting and retaining care workers for the elderly, OECD、来年公表予定）

日本では、ますます多くの介護が自宅で提供されている。施設や病院内の介護ベッドは減少してきており、65歳以上の人口千人あたりのベッド数は34である。これはOECD平均の47ベッドに比して非常に低い値である。

これらの要因を総合すると、日本には効率的で質の高い介護サービスがあることがわかる。病院における介護提供を控えることによって、より効率性を向上させることができるであろう。

日本

どのように比較されるか？

Health at a Glance 2019: OECD Indicators
www.oecd.org/health/health-at-a-glance.htm